

つくって遊んで語り合おう 粘土のおうち

新潟県上越市立大手町小学校

実施学年：1年

実施教科：生活科

生徒数：47人（2学級）

実施時間数：17時間



粘土のおうちの基礎づくり



粘土を積んで高い壁にする



粘土のおうち完成



粘土のおうちの中で友達や上級生と語り合う

児童は、生活科の学習で遊び場づくりの活動を行ってきた。そこでは、自分の思いや願いをもとにターザンロープをついたり、ザリガニのお堀をついたりして楽しみながら活動を進めてきた。中でも、児童に人気があったのが、おうちづくりの活動である。児童は、友達と協力しながらテントのおうちや電線ドラムのおうちをつくっていった。しかし、テントのおうちや電線ドラムのおうちは、強い風や雨によってすぐに壊れてしまった。そのため、「3匹の子ブタみたいにしっかりとしたおうちをつくりたい」という児童の思いをもとに、「粘土のおうち」づくりの活動を行った。「粘土のおうち」をついたり、出来上がった「粘土のおうち」の中で遊んだりしたことで、児童同士のかかわりが深まり、楽しみのある学校生活につながっていった。

学習のねらい

友達と力を合わせて「粘土のおうち」をついたり、「粘土のおうち」の中で語り合ったりする活動を通して、自分達にとって居心地のよい空間に気付き、友達とのかかわりを深めていく。

学習活動

- (1) 「粘土のおうち」の基礎をつくる。
- (2) 土と砂、藁を混ぜて粘土のかたまりをつくり、基礎の上に積んでいく。
- (3) 壁が高くなってきたら、バケツや丸型容器を使って入口や窓の穴をあける。
- (4) 防災シートにペンキで絵を描き、屋根を付ける。
- (5) 「粘土のおうち」の中で、友達や上級生と一緒に遊んだり、語り合ったりする。

準備品

プレス土 2t、栗石 1t、モルタル 200 kg、砕石 100 kg、ゴム手袋、丸型容器（入口用）、バケツ（窓用）、敷き藁、防災シート、単管、単管用金具

実施場所

大手町小学校グラウンド

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>グラウンド</p> <p>2 時間</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①グラウンドに直径 4mの円を描き、円の内側に幅 30cm深さ 15cmの穴を掘る。 ②掘った場所に碎石を敷き詰め、踏み固める。 ③大き目の石を高さ 30cm程度まで積み、モルタルで固める。 	 	<p>児童の作文シートより抜粋 「今日、ねんどのおうちづくりがはじまりました。グラウンドにあなをあけて石をいれました。そのあと、大きな石をつんでいきました。石がおもかったので、〇〇ちゃんと〇〇くんといっしょにはこびました。いっぱい石をはこんだのでつかれちゃいました。(中略)すこしたかくなったのでうれしいです。またこんどもがんばります。」</p>
<p>グラウンド</p> <p>10 時間</p>	<ol style="list-style-type: none"> ④土、砂、ワラを混ぜて粘土のかたまりをつくる。 ⑤粘土のかたまりを基礎の上に積んで壁をつくる。 ⑥バケツや丸型容器を使って、入り口や窓の穴をあける。 ⑦「粘土のおうち」の壁が雨風で壊れたため、話し合っ直す。 	   	<p>児童は、土と砂、藁を混ぜ合わせて、大きな粘土のかたまりをつかっていった。粘土の感触を楽しみながら、友達と協力して粘土を運んだり、壁に積んだりする姿が見られた。「粘土のおうち」が完成に近づいてくると、休み時間に入っとうちごっこをする児童が出てきた。しかし、これまでにつけてきた「粘土のおうち」が雨風のせいで崩れてしまった。学年全員で話し合っ直すことが決まり、懸命に活動に取り組んだ。</p> <p>児童の作文シートより抜粋 「月よう日に学校にきたらねんどのおうちがこわれていました。すごくやしいです。(中略)だから、ぼくは、もう1どねんどのおうちをつくりたいです。休みじかんにも、がんばってつくりたいです。みんなできょうかすればきっとできるとおもいます。ぜったいやります。」</p>

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>校内</p> <p>2 時間</p>	<p>⑧ 防災シートにペンキで絵を描き、屋根を付ける。</p>		<p>児童が、縦 9m・横 7mの防災シートにペンキで絵を描いた。児童が描いたのは、自分達が飼育しているミニチュアホース（1 頭）とミニブタ（3 頭）の絵である。しかし、屋根を取り付けるのは、自分達ではできないという意見が出てきた。そのため、用務員さんをお願いして取り付けてもらったことにした。屋根が付いたことで、児童は雨が降っていても外に出て、「粘土のおうち」の中で遊んでいた。</p>
<p>グラウンド</p> <p>3 時間 + 休み時間</p>	<p>⑨ 「粘土のおうち」の中で友達や上級生と一緒に遊んだり、語り合ったりする。</p>		<p>「粘土のおうち」が完成すると、児童は電線ドラムやビール瓶ケースをテーブルや椅子としておうちの中に置いた。そして、ビール瓶ケースに座って友達と話したり、上級生につくり方を熱心に説明したりする姿が見られた。</p> <p>児童の作文シートより抜粋「ねんどのおうちの中であそびました。〇〇くんと〇〇ちゃんと〇〇ちゃんといっしょにたくさんあそびました。テーブルとイスができたから、もっとおうちっぽくなりました。休みじかんには、6年生の〇〇さんと〇〇さんもきてくれました。6年生にがんばってつくったねといってもらえてうれしかったです。」</p>

生徒の作品



活動後には、体験を振り返って自分の思ったことや考えたことをカードに書く活動を続けて行ってきた。そして、書かためてきたカードを活用して、児童一人一人が1冊の絵本にまとめた。上の2枚のカードは、児童が絵本に選んだカードの中から抜粋したものである。

先生の声

実施に当たり工夫した点
苦労した点

本実践の「粘土のおうち」づくりは、「のらのら」（出版：農山漁村文化協会）という雑誌に記載されていたアイデアである。しかし、児童にいきなり「粘土のおうちをつくろう」と声をかけるのではなく、テントのおうちや電線ドラムのおうちづくりから発展的に活動を展開できたことで、児童の意欲が高まったと感じている。土や砂、藁、碎石などの準備品を用意することは大変だったが、「粘土のおうち」が完成した後は児童の満足そうな様子を見ることができた。

児童・生徒の反応

小学校低学年の児童は、おうちごっこや秘密基地づくり、泥遊びが大好きである。休み時間には、教室の中でも机や椅子をおうちに見立てて遊んだり、話をしたりしている姿を見かける。本実践では、児童の手で「粘土のおうち」をつくることで、自分達にとって楽しい空間、居心地のよい空間になることを目指した。そして、児童が力を合わせてグラウンドに直径4mの「粘土のおうち」を完成することができた。児童がみんなで協力して苦労しながらつくりあげたことで、「粘土のおうち」への愛着が生まれたと考えている。そして、「粘土のおうち」の中で遊んだり、語り合ったりすることで、友達や上級生と仲良くなかろうとする姿が見られた。

教師の変化
(担当、担当外を含めて)

「住教育」と言われると身構えてしまいそうになるが、児童にとって居心地のよい空間をつくり出すことの大切さを感じた。児童が「自分達の場所」という意識をもつことで、自然に友達と語り合い、コミュニケーションを図る姿が生まれることがわかった。